



北風が強い日になりましたが、風を遮る林の影に入ると日の暖かさを実感しました。(左)見事に赤く染まったイロハモミジです。日の当たり方が少ない枝では黄色い葉でした。一月前に比べると昆虫が少なくなりましたがまだジョロウグモがよく見られました。



紅葉する葉(モミジの場合)

気温が下がると葉と枝の間に離層ができて水や養分が通れなくなります。そうすると葉緑素は壊れて消えていくのでこれまで目立たなかった黄色の色素が見えてきます。また葉に残った養分からは赤色の色素が作られるので葉が赤く染まっていきます。しかし養分があまり残っていない葉では赤い色素があまり作られないので黄色が目立つのです。



ハナノキの冬芽

とがった冬芽です。冬の乾燥から芽を守るように鱗のような芽鱗におおわれています。



キハダエビグモ

アカマツの皮の裏に幅15ミリの蜘蛛が張り付いていました。木の皮の裏などせまい隙間にいる、体が扁平なクモです。



イダテンチャタテ

アカマツの枝の上を5ミリの虫が走りました。イダテンは「韋駄天」という神のことで足の速いことを例えています。正にイダテンで、この時撮った画像はぼけていました。上の画像は以前運動公園で映したものです。



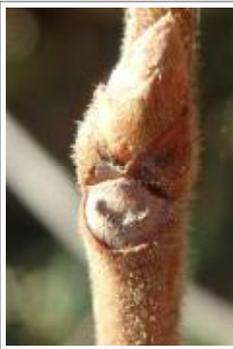
イセリアカイガラムシ

オーストラリア原産でミカンを始め300種につくそうです。天敵のベダリアテントウを導入して制圧されました。白いロウ物質の中には赤い卵が詰まっています。



モンキチョウ

一つだけ咲いていた花に止まった後、ひらひらと飛んで上のような姿勢でとまりました。光を最大限受けられるように、太陽の位置を確実に捕らえ、正対するように翅を傾ける能力があるようです。



マメガキ の冬芽

芽をおおう鱗片には毛が生えています。冬芽の下にある

顔のような部分は葉が落ちた痕です。顔のような形は葉柄の断面の形を表しています。目鼻のように見えるのは水や養分が行き来した維管束痕が塞がれた跡です。



バン

全長30㎝。泳ぐだけでなく潜水も、歩くのでもできますが水かきはありません。近くにいたオオバンはバンより一回り大きく、足に水かきがあります。



赤い実
サルトリ
イバラ



ツルウメ
モドキ



ノイバラ



カラスウリ



テイカカズ ラの実

枝にぶら下がっていたものは固そうでしたが、

莢がはじけたものが見つかりました。種の先に白い毛があるので、手に取って放すとふわっと空中に浮かびました。風に飛ばされて広がる種です。



オオヨコバイ

足を踏み入れた枯れ草の間で何匹か動きました。体長10㎝ほどで、幼虫も成虫もイネ科の汁を吸うカメムシの仲間です。黄色い頭部に2個の黒い斑点が目立ちます。



ハジロカイツブリ

池でよく見られるカイツブリより少し大きめの冬鳥です。赤い眼が印象的です。愛知池にはさらに大きくて首の長いカンムリカイツブリが大群で来ています。



植物 コセンダングサ、セイトカアワダチソウ、ノコンギク、キダチコンギク、ブタナ、スマレ、ジュウガツザクラ、シキザクラ、ヒイラギ、シロダモ、冬芽(ハナノキ、ヤマモモ、ニセアカシア、マメガキ、ヌルデ、ヤマハゼ、ムラサキシキブ、オニグルミ)、実(タカサゴユリ、シャシャンボ、クロガネモチ、モチノキ、アカマツ、ノイバラ、マメガキ熟す、ムラサキシキブ、アオツヅラフジ、ヘクソカズラ、カラスウリ、ツルウメモドキ、テイカカズラ、サルトリイバラ、センニンソウ)、**昆虫** 蝶(モンキチョウ)、蛾(メイガの一種幼虫)、バッタ類(姿見えず)、ムネアカハラビロカマキリ死骸、カメムシ類(チュウゴクアミガサハゴロモ産卵痕、オオヨコバイ、イセリアカイガラムシ)、ツクツクボウシ羽化殻、甲虫(姿見えず)、蜂(コマユバチの一種羽化殻、泥蜂の一種巣の痕)、蛇・蠅(ハナアブの一種、キンバエの一種、イエバエの一種、ユスリカの一種)、イダテンチャタテ、**蜘蛛** 体が小さく見えるジョロウグモと卵のう、アシナガグモ幼体、キハダエビグモ、**鳥** ハシブトガラス、メジロ、ヤマガラ、シジュウカラ声、コゲラ声、カンムリカイツブリ大群、オオバン、カワウ、ハジロカイツブリ、バン、**その他** 土壌生物(ダンゴムシ成体と幼体、セスジアカムカデ、オカチョウジガイ)、色づいた葉の内、赤系を紅葉、それ以外を黄葉とすると、紅葉(イロハモミジ、シャシャンボ、オオモミジ、コナラの一部、ヤマザクラ類、ミヤマガマズミ、アズキナシの一部、ミツバアケビなど)、黄葉(イロハモミジの一部、コナラ、アベマキ、クリ、タカノツメ、アズキナシ、リョウブ、アオハダ、ムラサキシキブ、フジ等)、イネ科の草もみじ

次回:1月9日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円